

第17期定期大会報告②

JLUニュース
No 1028（17－03）
航空連 日本航空ユニオン
中央執行委員会
2025年 9月 16日
Tel:03-5756-8690 URL http://www.jlu.co.jp e-mail honbu@jlu.co.jp

他労組の手本になるように 交渉で回答を引き出していく

9月５日、日本航空ユニオン第17期定期大会の報告ニュースその②です。

【引きつづき代議員からの意見、報告】

九州 JALEC 社員で年収は 1000 万超えの人がいるが、240 万は帰宅旅費なので実質 760 万円。これで成田に帰るとAFRS 手当が取り上げられてまた減る。若い人と給料の話をすると「でも原資が～」となる。自信をもって仕事に対する報酬をもらえばいい。我々も高卒、専門学校卒の集団でここまできた。組合が相談相手を抑えにかかると展望がなくなり、辞めていく。整備も受託で貢献しているのだから、自信を持って要求していいということを伝えたい。

羽田 HLX は休憩がまともに取れない。食事も仕事しながら取る、食事できないから弁当も持ってこない人もいる。特に夜勤が忙しく休憩を取っていないから、ほとんどの人が残業を付けている。深夜に SR をやって、そのまま朝の DEP に行く。休憩取らない、食事もしない、そのうち誰か死ぬと思う。若手が ANA LTC の視察に行って、明けの翌日が 2 連休になっていると言っていた。改善の余地があるのではと思う。

羽田 HLD の職場では、半分がシニアで、50 代半ばの自分が下から 2 番目。S 勤務は、帰りの時間が迫るなかで O/N を立て続けにやらなければならない。半年前に比べて帰りの時間が遅くなっている。インターホンの負担は減ったが休憩は取れないまま。朝の立ち上げ、夜の O/N は忙しい、バタバタしている。RIS や車も足りていない。下から 2 番目なのでまともな RIS が使えない。車も取れず、行きは JGS さんに乗せてもらって、帰りはヒッチハイクかトーイングカーに乗せてもらうことも。こんなに忙しいのに 69 歳の方が同じ仕事をしているのはすごいと思う。短縮勤務だからいいと言っているけど、これでは若い人もこない、人も増えないと思う。

単身赴任を 6 年経験したが若い人が苦労無く転勤できるように制度変えて欲しい。車の購入補助は通勤に使わないと補助が出ない。地方では家族がいれば 2 台、3 台が当たり前。縛りを無くして欲しい。

羽田 要求は確実に前進していると思うが、業績連動の仕組みは変えさせないといけない。社員のモチベーションを下げる一因になっている。海外重整備が進んでいるが HMA のスキル低下に繋がっていると思う。国内線で利益を伸ばせないという報道があるけれど、国の補助がないと維持できない路線は問題があると思う。

職場は HMZ/F なので TOOL が足りなければ言ってきて欲しい。会社として増配備していく動きがある。職場はシニアの方が多く、退職されると DFOB の方や再雇用の方が入ってくる工具室にもスキルがあり、これが低下していく。

■総括方針採決：賛成19、反対0、保留0、議長1で「可決」

第 16 期決算・第 17 期予算
三和会計幹事

財政議案書に基づいて、第 16 期の決算を報告、第 17 期予算案を提案した。以下質疑のやり取り。

羽田 繰越金がどんどん減っていくなか維持できるのか？固定人件費のうち退職金の積立金は入っているのか？

中執 専従書記の退職金の積み立ては 55 歳で終わっている。書記長については会社からの請求に対し、組合が払っているので問題ない。組合を維持できるかの話はこの後で。

■採決：16期決算、17 期予算案
＝賛成19、反対・保留0、議長1で「可決」

菊田書記長から現役組合員の減少とそれに伴う収入減について説明あり。（詳細は大会代議員または本部役員にご確認ください）

羽田支部兼務中央執行委員の任命

組合規約 47 条に基づき、以下の役員が羽田支部を兼務することを紹介、大会代議員全体の拍手で任命した。

第17 期羽田支部体制（定数9名）

支部長	糸谷 宏二（中央副執行委員長）
副支部長	山本 勝明（中央執行委員）
書記長	星崎 陽（中央副書記長）
副書記長	瀧本 桂一（中央執行委員）
支部委員	三和 博之（会計幹事）
支部委員	熊耳 景太（中央副書記長）
支部委員	水落 茂（中央執行委員）
支部委員	當間 武（中央執行委員）
支部委員	谷口 二郎（中央執行委員）

閉会あいさつ：第 16 期谷口副委員長

私は 3 月に定年を迎えることになるため、今期は三役を退くことにした。ただし、17 期もできる範囲でしっかり取り組んでいきたい。16 期を振り返れば足りない部分もあったが、近年の中では一定の成果を得た年だった。17 期は「16 期がピークだった」と言われないよう、積み残した課題を中心に団体交渉で追求していく。16 期の AFRS 手当については額の課題は残るものの、長年の主張が実った。これは粘り強く主張し続けた結果、きちんと主張し、勝ち取る。こういうことが大事。組合員が少なくなっても、最後まで闘い抜き、より良い会社にするために、他労組を指導する形でやっていきたい。今期もよろしくお願いします。

第 17 期定期大会へ JGS 労組からメッセージを頂きました

日本航空ユニオン 御中

連帯メッセージ

日本航空ユニオンのみなさま、第 17 期定期組合大会のご盛会おめでとうございます。

はじめに、私たちＧＨＵ・ＪＧＳ労働組合へのご協力に心より感謝申し上げます。また、安全運航を基本に高品質な航空機整備や労働条件の維持・向上に全力で奮闘されている貴労組に対し、深く敬意を表します。

この一年間も、長引く物価高騰により、私たちの生活が益々厳しくなったと実感しています。私たちは三大闘争を基本に、生活の維持と向上を目指して運動や取り組みを進めてきました。

2025 年春闘では、大手・中小企業を対象に物価上昇を上回る賃上げを目指す中、私たちＪＡＬグループで 10,000 円のベースアップを勝ち取ることができました。しかしながら、厚労省が８月に発表した６月の毎月勤労統計調査にもある通り、実質賃金が前年同月比で 1.3%減少している現状からは、賃金の伸びが物価に追いついていない厳しい状況が伺えます。そのような一年間でしたが、貴労組やＪＵ連絡会のみなさまと共に闘った成果を確認できます。特にＳＴ制度に関する要求が着実に前進していることは実感でき、喜ばしく思っています。

昨今の労働人口減少問題については、私たちＪＧＳグループでも社員の離職問題が大きな課題となっています。これを克服するためには、グラハンの地位向上が必要不可欠であり、貴労組のみなさまには貴重な団交時間を費やしていただき、日本航空経営に対して労働条件や働く環境の改善を強く訴えていただきました。あらためて感謝を申し上げるとともに、このことは、間違いなく日本航空の安全運航の構築への後押しになるものと確信します。

引き続き、新たな期についても、日本航空ユニオンをはじめ、ＪＵ連絡会のみなさまと連帯し、ＪＧＳグループの離職問題に歯止めをかけ、絶対安全の確立に向けて共に奮闘していく所存です。

本日の定期組合大会が、貴労組にとって実りのある大会となりますよう祈念し、連帯のメッセージといたします。

2025 年９月５日

GHU・JGS労働組合 執行委員会一同

おまけ

航空連フェニックスビルでの大会風景

こくみん共済 coop
石川支所長



中央ろうきん
奥田支店長
担当眞田さん





会場に集まった
代議員のみなさん



大会後は
その場で交流会…

佐藤委員長から水落執行委員に永年功労賞の贈呈



心から感謝し、
ここに表彰します



美味しいおつまみと
ビールで乾杯！

